

【大柿厚生文化センターだより:7月号アンケートより】

○ 買物等の移動支援に関するアンケート 最終集計結果

大柿厚生文化センターでは、高齢者等の買物や通院などの移動について、地域の皆さんの現状やニーズを把握するため、アンケートを実施しました。締切後も市内のケアマネジャーの皆さんから多くの回答が寄せられ、最終的に 181 件の回答となりました。

ご協力いただいた皆さんに、心より感謝申し上げます。

「移動支援が必要だと思う」「どちらかといえば必要」と回答した人は 127 人(70%)。

また、お試し事業について「利用してみたい」は 58 人(32%)、「今は必要ないが、将来的には必要」は 70 人(39%)となり、合わせて約 7 割の人が、現在または将来の利用の可能性を示しました。利用してみたい内容では、「買物」111 件、「通院」86 件が多く、買物と通院が移動支援への主なニーズとなっています。

○ 自由記述から見えてきたこと

自由記述 61 件を内容ごとに整理すると、移動手段の確保だけでなく、暮らしのさまざまな困りごとが寄せられました。

● 交通・移動

バスの本数が少ない、乗り換えが大変、免許返納後の移動手段がない、買物や通院のための送迎がほしいなど。

● 買物・生活サービス

買物支援、移動販売、店舗やコンビニ、日用品・薬品の購入、食材の宅配など。

● 通院・外出・社会参加

病院や金融機関への移動、外出時の付き添い、百歳体操や地域活動などへの参加のしづらさなど。

● 日常生活のちょっとした支援

ゴミ出し、重い物の運搬、庭の草取りや剪定、家屋の清掃など、高齢になると難しくなる作業への支援。

● 地域の環境・安心

空き家や草木、鳥獣被害、道路や横断歩道、避難場所など、地域で暮らし続けるための環境への意見。

● 「今は困っていない」という声も

家族や近所の人の支援、家族による送迎や買物などによって現在は困っていないという声もありました。一方で、「運転できなくなったら」「家族の支援がなくなったら」という将来への不安も寄せられています。

●

今回のアンケートから、移動支援は単に「買物へ行くための車」を用意するだけではなく、**買物・通院・社会参加など、地域で安心して暮らし続けるための「移動」をどう支えるか**という課題であることが分かりました。

いただいた声を地域の皆さんや関係団体と共有しながら、お試し事業の具体化について検討していきます。